

# 令和元年台風第15号による横浜ヘリポートの被害と復旧状況について

## 1 台風第15号による被害状況

○発生日時 令和元年9月9日(月)2時10分ころ  
○被害状況 記録的な高波により、護岸が崩壊するとともに大量の海水が格納庫内に押し寄せ、消防ヘリコプター1機に甚大な被害を与えたほか、敷地内の自家用給油施設や外周部の各施設に被害をもたらした。  
なお、横浜ヘリポートは、昭和57年の開所以来、初めての浸水被害となった。



### <被害の詳細>

○消防ヘリコプター2号機  
・着陸装置及び車輪格納装置一式  
・ヘリテレ映像関係装備品  
・機外スピーカー及び電子部品・配線  
・胴体下面外板及び各種アンテナ類  
などが冠水し、運航不能となった。



○格納庫  
シャッター下部が破損した。  
・電源設備(コンセント)  
・機体牽引車  
・整備用資機材一式  
などが冠水し、整備不能となった。



○自家用給油施設  
航空燃料給油用の電動ポンプが冠水し、給油不能となった。  
(地下燃料タンクへの浸水は免れた。)

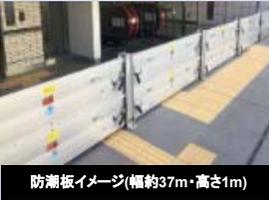


○外周部  
・護岸の一部崩壊  
・敷地外周部のフェンス倒壊  
・進入口シャッター破損(開閉不能)  
などの被害が発生した。



## 2 復旧に向けた取組

### <横浜ヘリポート高波等被害対策検討会(5回開催)>

【主な検討事項】	【取組】
①消防ヘリコプター2号機の早期復旧	早期修繕に向け冠水箇所の特定や経費積算等の実施 【令和元年第4回市会定例会 復旧事業費補正予算(3億4千万円)議決】 【令和2年第1回市会定例会 修理用部品取得(約2億8千万円)議決】
②台風時の消防ヘリコプターの緊急避難	・緊急避難先2か所を確保(6月末) ・緊急避難計画の策定(6月末) ・緊急避難に関する国、他都市との連携
施設の浸水対策	それぞれについて浸水対策としての効果は認められるものの、護岸復旧工事の状況を踏まえた有識者からの意見も考慮し検討した結果、 <b>格納庫前に防潮板を設置することとした。</b>
③ヘリポートの移転整備	 防潮板イメージ(幅約37m・高さ1m)
④ヘリポートのかさ上げ	
⑤格納庫シャッターの重量扉への交換	
⑥格納庫前への防潮板の設置	

## 3 復旧状況

○消防ヘリコプター2号機  
・整備工場へ入工(2月7日)  
※冠水箇所の部品交換及び耐空検査等の整備完了並びに運航開始(7月上旬)



○格納庫  
・めくれ上がったシャッター下部の交換  
・コンセント(41箇所)を地上約1mの位置に移設  
・整備用資機材等の更新  
※防潮板の設置(8月末)



○自家用給油施設  
・電動ポンプ2機を交換  
・周囲に大型水のうを配備  
(台風接近時に対応)



○外周部  
・護岸沿いに大型土のうを設置  
・護岸復旧工事(護岸のかさ上げ等)を実施中)  
・敷地外周部のフェンスを交換  
・進入口シャッターを交換

